

麻しん（はしか）患者の発生

（要旨）

令和4年7月28日、焼津市内の医療機関Cから中部保健所に、麻しん患者の発生について届出がありました。

中部保健所の調査により麻しん患者との接触者は全て特定され、医療機関から個別連絡の実施をする等、感染拡大の防止に努めています。

1 患者の概要

- 焼津市在住の1歳6か月男児（MRワクチン未接種、現在は退院し、回復している）
- 6月中旬から7月中旬までインドネシアへ渡航、麻しん患者と接触

2 患者確認に至った経緯

日時	状況
7月17日	発熱
7月19日	焼津市内の医療機関Aを受診
7月20日	発熱・発疹のため同市内の医療機関Bを受診（接触者なし）
7月21日	医療機関Bからの紹介により同市内の医療機関Cを受診・入院
7月25日	解熱
7月26日	退院、自宅待機
7月28日	検体(25日採取)の検査結果が判明、医療機関Cから麻しん患者として届出

3 麻しん患者の発生状況（単位：人）

年	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)
全国	177	279	744	10	6	2
静岡県	1	5	10	1	0	1

令和4年の全国は7月24日時点 静岡県は7月28日時点

4 麻しん（はしか）

別添参照

5 海外での麻しん

- 海外（特に、アジア、アフリカ、欧州）では、麻しんが発生しています。
- 海外に行く前には、麻しんの予防接種歴を母子手帳などで確認し、2回接種していない方は予防接種を検討してください。
- 帰国後2週間程度は健康状態に注意しましょう。

<厚生労働省ホームページ（麻しんについて）>



報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることのないよう、格段のご配慮をお願いいたします。

(別添)

麻しん（はしか）について

1 症状等

潜伏期は通常10～12日間であり、症状はカタル期（2～4日）には38℃前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血、などであり、熱が下降した頃に頬粘膜にコプリック斑が出現します。

発疹期（3～4日）には一度下降した発熱が再び高熱となり（39～40℃）、特有の発疹（小鮮紅色斑が暗紅色丘疹、それらが融合し網目状になる）が出現します。発疹は耳後部、頸部、顔、体幹、上肢、下肢の順に広がる。回復期（7～9日）には解熱し、発疹は消退し、色素沈着がおこります。

なお、上記症状を十分満たさず、一部症状のみの麻しん（修飾麻しん）もみられることがあり、これは麻しん・風しんワクチン（MRワクチン）による免疫が低下してきた者に見られることが多くあります。

2 感染経路

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強いと言われており、感染する時期は、発症の1日前から解熱後3日後までとされています。

免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われてしています。

また、ワクチンの効果は非常に高く、ワクチン接種を受けた人の95%以上が免疫を獲得します。しかし、接種しても、数%は免疫が獲得できない場合や、獲得した免疫が持続しない場合があります。現在、1歳（第1期）と小学校入学前年度（第2期）に、MRワクチンの定期予防接種を実施しており、予防接種をしていれば感染するリスクは少なくなります。

なお、本県では第1期では97.1%、第2期では94.8%の方がMRワクチンを接種しています（令和2年度実績）。

3 潜伏期間

約10日～12日間

4 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

5 その他

MRワクチン未接種の方で、麻しん（はしか）と診断された方や熱や発疹のある方と接触後に、37.5℃を超える熱や、全身の発疹等麻しんを疑う症状が現れた場合は、事前に医療機関に連絡しマスク着用の上、指示に従い受診してください。

また、移動の際は、周囲の方への感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。